

岩津ねぎだより

平成 29 年 10 月 19 日
岩津ねぎ産地協議会
生産支援チーム

1 軟腐病・黒斑病・さび病が発生しています。防除しましょう。

① **軟腐病**は周辺の株に被害が拡大しないように、まず発病株を取り除き、ほ場の外に持ち出しましょう。雨が降り続けていますが、雨の合間にヨネポン水和剤やZボルドーなどを散布し予防しましょう。

② **さび病**がまだ発生していないほ場ではペンコゼブフロアブル、ヨネポン水和剤など予防剤を散布してください。さび病が発生したほ場ではオンリーワンフロアブル、サプロール乳剤、アミスター20フロアブルの順番で散布してください。

③ **黒斑病**は根傷み、肥料不足で発生が多くなります。降雨が続いており今後多発が予想されます。さび病と共通の農薬が多いので、施肥・防除暦を確認してください。

④ **展着剤**は必ず使用しましょう。



上の写真は黒斑病の病斑です。下の写真は土寄せ後の根傷みで葉先が傷み、黒斑病が発生したほ場の様子です。病斑上の胞子が飛散し、周囲にまん延します。したがって、発病が少ないうちに、発病葉を取り除いてほ場の外に持ち出し処分すると効果的です。また、ほ場の排水もお願いします。

注意）薬剤の使用方法は施肥・防除暦を参照ください。また、農薬はラベルの使用基準・注意書をよく読んでご使用ください。

2 ベと病に注意

べと病は15～20℃の気温で、降雨がつづくとも発生が増加します。現在、秋雨前線が停滞しており、発生しやすい気象条件となっています。ペンコゼブフロアブルやテーク水和剤は予防効果が高い農薬です。発生前に散布しましょう。黒斑病やさび病と共通の農薬が多いので、施肥・防除暦を確認してください。



天候の回復を見て、早急に防除しましょう。

3 追肥と土寄せをしましょう



このほ場では、地下の葉鞘（軟白部）の長さは、まだ15cmでした。一回の土寄せは5~7cmですので、軟白部の長さ25cm以上を満たすには、今後2回の土寄せが必要です。

このほ場では、地上部の葉鞘が伸びている状況ですので、早めの追肥と土寄せが必要です。

このほ場以外にも、葉色が薄く土寄せ作業が遅れているほ場が散見されますので、早めの追肥と土寄せをお願いします。

土寄せは、原則20日ごとに行います。最終の土寄せは軟白長25cmが確保できることを確認してから、襟首までしっかり土入れしましょう。

<問合せ窓口>

和田山営農生活センター : 672-4800
山東営農生活センター : 670-7744
朝来営農生活センター : 670-4341
朝来農業改良普及センター : 672-6886